

## 映画の小箱

夏のバカンスといえば、  
海辺のリゾート。  
北フランスの海辺で、1人の青年が  
恋模様を繰り広げる

# 『夏物語』 海辺に揺れる 夏の恋

金丸弘美=文  
text by Hiromi Kanamaru

上泉 均=写真  
photograph by Hitoshi Kamiizumi

夏は四季の中でも、もっとも人をのびのびと開放させる季節だ。とりわけ、フランスの人たちにとっては、一年の中でもゆっくりバカンスをとるといのが習慣になっている。七月から八月にかけて、二週間から三週間を

かけるということは、  
珍しくないようだ。  
海辺のリゾートにバ  
カンスに行くという

のは、最高の安らぎのひとときである。

『夏物語』の主人公ガスパール(メルヴィル・ブボー)も、リゾート地にやってくる。もっとも彼の場合は就職を控えた学生で、夏休みだ。将来をどうするか岐路にある。就職は決まっているが、ミュージシャンになりたいという気持ちも強くある。

ガスパールが、ギターをつまびきながら、船に乗って、七月十七日の月曜日にたどり着

いたのは、ブルターニュ地方のダイナール港だ。彼にとっては初めての地である。友人の小さな一部屋を借りて、一夏を過ごすつもりだ。この地はダイナールの貴族の保養地として知られ、裕福な人々のリゾートになっている。エメラルド海岸にある美しい遠浅の浜辺には、薄いピンクやグレーの縞の入った、小さな日除けのテントが張ってあり、これだけで、潮風の爽やかさを感じられるようだ。

近くには、サン・マロという、かつて多くの船乗りが海へ冒険に出掛けた有名な港がある。一八世紀に築かれたという城壁や城が今でも残る。まるで、いくつもの時代をくぐり抜けているような錯覚さえさせる。

ガスパールの夏は、自分の歌『海賊の娘』を作曲し、恋人と旅に出るのが一つの目的だ。サン・マロの港が、十七世紀に、王から外国船からの掠奪を許可され、公的な海賊の港と



の店だから手伝い  
をしているの」と  
いう民族学を専攻  
している学生のマ  
ルゴ（アマンダ・  
ラングレ）に声を  
掛けられる。クレ  
ープは、この地で  
育まれたものなの  
だ。



して榮え、多くの船乗りが武勇を轟かせていた所だったことを考えれば、ガスパールの歌は、もつとも相応しい曲だったのだろう。もつともガスパールの夏は、十七世紀の荒々しい男たちとは違って、恋をする女の子レナ（オーレリア・ノラン）をひたすら待っているという、いささか頼りないものなのだ。レナは、自分たちでバカンスに行っていて、ガスパールと合流して、ウエッサン島に行くという約束なのだ。ウエッサン島はフランス最西端のブルターニュの地であり、夏は快適なところではあるが、強い潮流があるところから、船乗りの間では「ウエッサンを見る者は血を見る」という諺が残っているところ。なんだから、ガスパールの恋の行方を物語ってもいるかのようだ。

レナは待てどもこない。ガスパールには、ただ待つばかりの夏休みが始まる。美しい風景の中で繰り広げられる、日付の入った映像は、青春の絵日記を見ているかのようだ。

港に着いた翌日、散歩の途中で入ったクレープ店「月あかり」で、ガスパールは、「叔母の店だから手伝い

ガスパールはマルゴに誘われ、浜辺でデートをした。二人は気楽に話せるようになる。ガスパールは、マルゴに気持ちが傾いたかのようだ。でも、「僕は愛されないと愛せない」なんて、言ってしまうのだ。次の日にマルゴに連れられてデイスコに行ったガスパールは、ソレーヌ（グウェナエル・シモン）という肉感的な女性に魅せられ、彼女とも後日デートをし、旅行に行くことを約束してしまう。つまりガスパールは、知的でラフなマルゴ、感情的で気儘な恋に恋するようなレナ、肉感的なソレーヌと、三人の女性に魅せられてしまう。実際、自分は本当に誰を愛しているのかわからず、とうとう三人に同じ島に行くことを約束してしまうのだ。エメラルド海岸で知り合った二人の女の子とデートが重なるうちに、一週間以上もたつてレナがやってきた。ガスパールはやっぱりレナが好きだと確信する。しかし、マルゴやソレーヌに会うと、自分の気持ちが揺れ動き、とうとう同じ日に三人と旅に行く約束をしてしまった。悩んだガスパールは、友人との電話で、作曲のためのテープデッキを譲り受ける旅行に行くという理由を自分でみつけて、三人の女性の約束を反故にしようのだ。

彼は三人の女性に会うことによ

って、音楽という本当に好きな

つまりは自分を、夏の日に発見し

たのだろう。夏の日には、どんなに

ささやかでも、やはり冒険に満ち

ているかのようだ。それは青春の

日であればなおさらだ。

### 『夏物語』

（仏・シネセゾン）Conte d'été 1996年

監督・脚本=エリック・ロメール

出演=メルヴィル・ブポー、アマンダ・ラングレ、

グウェナエル・シモン、オーレリア・ノラン

8月中旬より、東京・シネ・ヴィヴアン六本木にて上映